

## 令和 5 年 3 月の解説（府県天気予報）

### 【3 月の天候状況】

上旬は、高気圧に覆われやすく、西高東低の気圧配置となりにくかったため、ほぼ全国的に降水量は少なく、日照時間は多くなりました。特に、東・西日本太平洋側、西日本日本海側、沖縄・奄美では降水量がかなり少なく、日照時間がかなり多くなりました。東日本日本海側では日照時間がかなり多くなりましたが、期間のはじめと終わりに前線が通過してまとまった雨が降った日がありました。日照時間平年比は東日本日本海側で 188%、西日本日本海側で 176%、東日本太平洋側で 140%、西日本太平洋側で 158%で、それぞれ 1961 年の統計開始以降、3 月上旬として 1 位の多照となりました。北日本、東日本、西日本では大陸からの寒気の影響を受けにくく、暖かい空気が流れ込んだ日もあったため、平均気温はかなり高くなりました。平均気温平年差は北日本で+3.7℃、東日本は+3.3℃で、それぞれ 1946 年の統計開始以降で 3 月上旬として 1 位の高温となりました。期間の前半に冷涼な高気圧に覆われた沖縄・奄美の平均気温は平年並でした。

中旬は、全国的に天気は数日の周期で変わり、日本海を進む低気圧から延びる前線が通過した 12 日から 13 日は各地で曇りや雨となり、18 日頃には本州南岸を低気圧が通過したため東・西日本太平洋側を中心にまとまった雨が降りましたが、その他の日は高気圧に覆われやすくなりました。このため、日照時間は全国的に多く、特に北・東・西日本日本海側と西日本太平洋側でかなり多くなりました。降水量は、まとまった雨が降った日があった東日本太平洋側で多くなりましたが、西高東低の気圧配置となりにくかった北・東・西日本日本海側で少なくなりました。全国的に南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、気温は北日本、東日本、西日本でかなり高く、沖縄・奄美で高くなりました。平均気温平年差は北日本で+2.9℃で、1946 年の統計開始以降で 3 月中旬として 1 位の高温となりました。

下旬は、本州南岸に前線が停滞したため東日本太平洋側から西日本、沖縄・奄美を中心に曇りや雨の日が多く、23 日から 24 日にかけて本州付近を低気圧が通過して北・東・西日本太平洋側を中心にまとまった雨が降りました。また、22 日には沖縄本島地方で線状降水帯が発生し、30 日には沖縄・奄美で大雨となった所がありました。このため、降水量は北日本太平洋側でかなり多く、日照時間は沖縄・奄美でかなり少なくなりました。一方、移動性高気圧に覆われやすく、西高東低の気圧配置となりにくかった北日本日本海側の日照時間はかなり多くなりました。南からの暖かい空気が流れ込みやすかったため、全国的に平均気温はかなり高く、平均気温平年差は東日本で+3.8℃、西日本で+3.1℃で、1946 年の統計開始以降で 3 月下旬として東日本は 1 位タイ、西日本は 1 位の高温となりました。

### 【3 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より 6%高い 90%で、明後日予報は例年値より 7%高い 88%でした。地方別の適中率では、明日予報は、九州南部地方では例年値を下回りましたが、それ以外の各地方では例年値を上回りました。明後日予報の適中率は全ての地方で例年値を上回りました。

同じく 17 時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.4℃小さい 1.3℃で、全ての地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予

報誤差は、全国平均で例年値より 0.3℃小さい 1.2℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

### **【5月の天気予報の利用にあたって】**

5月は、高気圧に覆われて晴れる日もありますが、低気圧が発達しながら日本付近を通過して大荒れの天気となることもあります。また、上空に寒気が流れ込むと大気の状態が不安定となり、穏やかな晴れの天気から一転して雷や突風・竜巻、局地的な大雨、降ひょうとなることがあります。屋外での活動を計画している場合は、天気予報とともに最新の気象情報や早期注意情報、注意報、警報の発表状況にも留意し、天気の急変などに備えてください。